

児童発達支援 事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年3月1日

事業所名 スタジオそら原宿

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切であるか	5	1	訓練室A/Bの2つを活用しスペースを確保。	時間割・預かり時間の見直しをする。
	② 職員の配置数は適切であるか	6	0	役割を明確にしている。	夕方帯混みあう時間の過ごし方を再検討する。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	1	視覚化・構造化をしている。	入口の階段に関しては改善は難しい。都度声掛けとスタッフがベビーカーをあげている。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間になっている。	6	0	月毎に壁紙を変えている。	臭いの改善。
適切な支援の内容	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画している	6	0	日々打ち合わせで行っている。	全員での共有システムを充実させていく。
	⑥ 保護者向け評価表により、保護者に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善に繋げている	4	2	社内研修を行っている。	フィードバックは全員行っているがアドバイスできるものは限られているので研修通じ、業務改善まで反映できるよう知識を高める。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	事業所内にて保護者閲覧ファイルを設置している。	HPでの掲示を検討中。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	6	第三者評価は実施していない。	実施することを目標とする。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	社内研修を実施している。	様々なテーマでの研修を充実していく。あおぞら療育が課題。
業務改善	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0	アセスメントに関する研修を社員全員受講済み。	スタッフ全員が同じようにとれるように経験を積んでいく。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	アセスメントに関する研修を社員全員受講済み。	道具の種類を増やしていく。
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	2	4	地域で開催されているイベントに今年は参加しました(鳩森神社でのお祭り)ただ参加するだけでなく地域のことも共同で山車をひきました。	参加の機会を増やしていく。
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0	日々打ち合わせで確認しながら行っている。	利用日数が少ない会員への内容を工夫していく。
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	3	3	日々打ち合わせで確認しながら行っている。	イベント内容がチーフ以外がたてられるようになる。
⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	日々打ち合わせで確認しながら行っている。	職員が新たな発想をインプットできる機会を増やす。	

	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	6	0	日々打ち合わせで確認しながら行っている。	通所できる曜日が限られている場合は難しい。来年度個別も検討中。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	30分～1時間必ずとっている。	時短で行いより準備に時間をとれるようにしていきたい。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	終礼にて様子・変化を確認している。	各プログラム毎の共有用の振り返りシートを活用している。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	SOAPノートの活用。	SOAPノートをさらに活用していき抜けがなく共有していく。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	0	定期的に行っている。	全員で行える機会が少ないため担当制にするか時間を確保するかで対策していく
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	管理者チーフが参加している。	特定の地域以外からは電話での会議要請がほとんどである。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	1	5	一部の地域に限定されている。	センターの関わりを増やしていく。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	6	現在対象児は利用していない。	特になし
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	6	現在対象児は利用していない。	特になし
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	2	要請があれば保育園への見学・意見交換を行っている。	特定の地域に限られている。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	3	保護者を通じて行っている。	特定の地域に限られている。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	0	管理者が協議会へ参加している際に意見交換を行っている。	今年は積極的に現場スタッフも参加した。継続。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	4	地域のイベントには参加している。	どのような形で機会を作るか検討する。
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	0	管理者が参加している。	持ち回り制なので担当の時は現場(若手)も参加。
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	毎日フィードバックの機会を作っている。	迎えが祖父母のときなどの共有をどのようにするか検討する。
	⑳	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	1	5	助言のみ。	セミナーなど企画したい。
	㉓	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	契約時、随時説明を求められたら説明を行っている。	契約以降、保護者が来ない場合の対応方法。
		児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき				

保護者への説明責任等	③③	らいつ及び文援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0	面談を随時行い説明している。	スタッフ全員が対応できていないので経験を積んでいく。
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	随時フィードバックにて行っている。	知識にバラツキがある。研修は勉強会の時間を設け向上していく。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	6	法改正の際に実施した。	ニーズが少ない。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	すぐに共有し話し合い対策を練っている。	利用回数が少ない会員に対しての対応が難しい。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	そら通信で発信している。	HPもリニューアルされ充実している
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	鍵付きキャビネットを活用している。	事務室内の書類管理。不意に人が入ってきたときに常時整備できているようにする。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	共有の書類を作成している。	カードなど十分に作成している
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	6	行っていない。	どのように機会を設けるか他事業所も参考に検討していく。
非常時の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	0	定期的に行っている。	引き続き定期的に行い意識を高めていく。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	火災、地震と訓練している。	次回、通報訓練行う。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	0	事前に共有している。	フェイスシートの確認。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	4	保護者へ都度確認している。	事前相談を確実に行う。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	日々終礼で確認を行っている。	毎月定期的に作成している
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	研修を実施している。	年2回(必要に応じて+α)実施している
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	0	契約書を取り直し全員に説明を実施した	マニュアルを整備した。

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。